

広島県下で発見された腐生ラン

ツチアケビ *Galeola septentrionalis* Rchb.

全国的に広く分布する腐生ランで、花期は7月頃。カキの実を細長くしたような暗赤色の果実をつけるため目につきやすく、県下でも多くの観察例がある。今回も果実のついた株を発見したものである。佐伯町のヒノキ植林地の下(S. 52. 12. 19, 青山)、この株は液浸標本にして保存している。吉和村のブナ林の林床(S. 53. 11. 10, 石田・磯部)。

ショウキラン *Yoania japonica* Max.

主に裏日本寄りの針葉樹林下に生じる腐生ラン。株全体が多汁質で、薄桃色の比較的大きな花を数個つける。今回観察したのは吉和村のブナ林の下に出現した開花中の株(2株)であり、



ツチアケビ (*Galeola septentrionalis*), 吉和村



オニノヤガラ (*Gastrodia elata*), 豊栄町

この株からは前年も出現している(S. 52. 6. 30, 青山)。1株を採集し、液浸標本にして保存している。

キバナノショウキラン *Yoania amagiensis*

Nakai et Maekawa

この種は、前記のショウキランに酷似しているが、表日本のブナ林に分布すること、地下茎が密に分岐して団塊状になること、花数が多く全体に黄かっ色に帯びることなどにより区別できる。古い記録になるが広島大学の豊原源太郎先生が比婆山で1株採集している(S. 48. 6. 16)

オニノヤガラ *Gastrodia elata* Blume

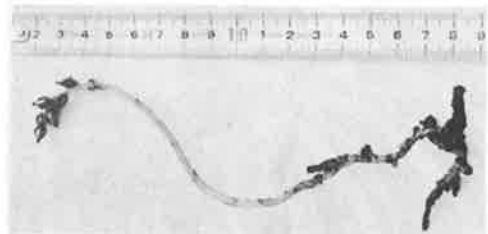
全国的に広く分布する腐生ランで、落葉樹林下のやや暗い場所に生育する。0.5~1mの花茎が立ち上り、上部に小さい花が穂状に20~40花つく。地下には細長いジャガイモ状の根茎をもつ。今回豊栄町の寺の裏庭に3本発生したもので、今までに見たことはないということであった(S. 53. 6. 13, 唐沢)。1株根茎とともに採集し、液浸標本にして保存している。

ヒメノヤガラ *Chamaegastrodia sikokiana*

Makino et Maekawa

本種はシイタブ帯の上部からクリ帯にかけての林下に生じるややまれな腐生ランである。今回観察したのは吉和村のブナ林の下に生育していたものである(S. 53. 11. 10, 石田・磯部)。5株程が小さな群落をつくり、果実を約10個つけていたものである。花を見ていないが、地下部より掘り取ってきた株を文献等と比較してヒメノヤガラであろうと推定した。この株は液浸標本にして保存している。本種については開花期に再度観察する必要がある。

(青山幹男 記)



ヒメノヤガラ (*Chamaegastrodia sikokiana*)
吉和村